非核・いしかわ

2022年9月20日　月刊第290号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は86か国、批准は66か国（9月15日現在）

1面　第10回NPT再検討会議　核保有国に核軍縮・廃絶への具体的行動迫る
2面　笠井亮衆議院議員に聞く「おり鶴さん」出版案内
3面　平和と社会保障　井口克郎
4面　なぜ教育が標的にされるのか ―水面下の動きを探る―　斉加尚代
5面　伊藤千代子が問いかけるもの　ワタナベ・コウ
6面　戦後77年、今求められるものは　永山孝一
7面　<独標>新版『資本論』を詠む　船本耕喜
非核・平和の掲示板
8面　石川の山めぐり　吉沢京子
絵手紙コーナー　坂本朋子
編集室より

第10回NPT再検討会議
核保有国に核軍縮・廃絶への具体的行動迫る

ニューヨークの国連本部で八月一日～二六日に開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議では、圧倒的多数の国が核保有五カ国に核廃絶へ具体的な行動を起こすよう迫りました。

ロシアの反対で最終文書案を採択できなかったものの、核兵器の禁止・廃絶を求める世界のうねりを鮮明に示す会議になりました。

第10回ＮＰＴ再検討会議の最終日の全体会合で発言するスラウビネン議長＝８月26日

最終文書を合意できず閉幕したが圧力乗り越えて意味あった会議

禁止条約に賛同する国々は、最終文書案で核兵器の非人道性を再確認し、〝禁止条約がＮＰＴを補完〟と明記するよう求めました。

核保有国は「意見の一致がない」（フランス）、「問題点が多い」（英国）などと猛反発し、段落の削除や表現の大幅変更をくりかえし要求しました。

会議で最大の焦点になったのは、核軍備縮小撤廃の交渉義務を定めたＮＰＴ第六条や過去の再検討会議にて全会一致で合意した核軍縮の約束を保有国にどう実践させるかでした。

核保有五カ国は一月、「核戦争に勝者はおらず、けっしてたたかってはならない」とした共同声明を出しました。しかし翌月にはロシアがウクライナを侵略し、核兵器で世界を威嚇しています。世界には約一万三千発の核兵器があり、保有国は増強を進めています。

ＮＰＴ加盟国の六割以上を占める非同盟諸国を代表したアゼルバイジャンは、核兵器増強は「ＮＰＴ第六条

花鳥風月

先の参議院選挙の結果で「黄金の三年間」と呼ばれる期間があるらしい。誰にとっての黄金なのだろうかとは思うが、これからの政治的対決を考えると覚悟しなければと思う▼小森陽一・九条の会事務局長が東京のある平和集会で「ウクライナに戦争を仕掛けたロシアの東の隣国は日本です。国際紛争を解決するために、九条の理念を生かす外交の努力こそが求められている」と語った。前世紀の軍事ブロックによる対決構造が蘇って来るかのような、ロシアとＮＡＴＯ諸国の対決、台湾をめぐる米・中対決のただ中で、これらに巻き込まれようとしている日本の安全保障政策が鋭く問われている▼この夏、石川県庁の一階特設展示コーナーで開催された「七三一部隊パネル展」と「原爆と人間パネル展」の両方に関わったが、いずれも戦争の惨禍を呼び起こし、不戦の誓いを新たにする地道な取り組みがこれからも大切だ▼同時に、世界には軍事力にものを言わせて平和の秩序に挑戦する国の指導者は確かにいる。不安に駆られて「攻められたらどうする」の議論を前に、どういった非軍事的な手段、国際的な安全保障の枠組みが可能か、目に見える形で提示することが求められている。しかし、この構想の打ち出しはまだまだ弱いように感じる。九条の理念である積極的平和構築の策を国民多数の世論にすることで、本当の「黄金の三年間」にしたいものである。（Ｉ記）

に明確に違反している」と批判。「第六条は法的な義務であり、その実践は任意ではないし、条件をつけてもいいものでもない」とクギを刺しました。

核保有国は、「国際的な安全保障の悪化」などを理由に核廃絶の要求に背を向けました。

NPT再検討会議のスラウビネン議長は閉幕に当たっての会見で、「一ヵ月に渡って核兵器の脅威や非人道性などが大いに議論された」とし、「その点では意味ある会議だった」と語りました。

また「大多数の国が核軍縮でいっそうの前進が必要だと主張し続けた。これは最終文書案の不採択を理由に消えるメッセージではない」「このメッセージを核保有国が受け止め、条約上の義務を遂行することを望む」と力を込めました。

（石川県原水協　新井田義弘）

漫画で描きつづけた被爆者の戦後
おり鶴さん
（A5判　224頁　1650円）

被団協新聞に連載された4コマ漫画から336作品を収録。石川県の被爆者・西本多美子さんも出版に尽力しました。石川県原水協でも販売しています。

笠井亮 衆院議員に聞く

核兵器禁止条約（核禁条約）第一回締約国会議（六月、ウィーン）につづき、NPT再検討会議にも参加し原水禁世界大会でその様子を報告された笠井亮衆院議員が、今回のNPTの注目点をしんぶん「赤旗」（九月六日付）で語っていましたので一部紹介します。

笠井晃衆議院議員

前回会議（二〇一五年）に続き、最終文書を合意できずに閉幕しました。どう受け止めていますか。

笠井　最終日の全体会合で、スラウビネン議長が「今日、残念ながらたった一ヵ国が異論を示した」とアナウンス。「核兵器のない世界」へ前進をと熱い討論が展開され、私自身も発言した国連本会議場が、ため息と落胆、怒りに包まれたのはよくわかります。

唯一反対したロシアはもとより、「核抑止力」に固執して前進を押しとどめようとした核保有五大国は厳しく非難されなければなりません。

「冷戦の最盛期以来、かつてないほどの核使用の脅威」（最終文書案）が高まっているにもかかわらず、NPTの要といえる第六条の核軍備撤廃の交渉義務を誠実に履行しようとしない。この核保有国の姿勢に「一握りの締約国に軍縮義務を実行する気がさらさらないことが明白になった」（マレーシア）と厳しい批判の声が早速あがりました。

ただ七年前の会議と明らかに違うのは、核兵器禁止条約が発効し、今年六月の第一回締約国会議で採択されたウィーン宣言・行動計画があることです。

これを力にした国々の活躍が目立ち、攻勢的で説得力ある議論によって、ウィーンの熱気がニューヨークに持ち込まれて、採択されなかったとはいえ、ロシア以外のすべての締約国が異議を唱えなかった到達点が最終文書案といえます。

核禁条約が発効したもとで、核保有国の論調に変化はありましたか。

笠井　今回の会議に参加して核保有国は防戦に追い込まれていたと感じました。実際、核兵器の非人道性や核禁条約に言及した多数の国が支持する文書案に明確な根拠も示さないまま削除や変更を求めました。「核兵器のない世界」を追求する世界の本流から孤立する姿は鮮明です。

核保有国が主張する「核抑止論」も、ウクライナを侵略するロシアのプーチン大統領が核兵器を使用すると世界を脅したことからも、その破綻は明らかです。

コスタリカが紹介した「核兵器の非人道性に関する共同声明」（八月二二日）にある「核兵器を再び使用させない唯一の保障は、核兵器の完全廃絶」という主張こそ説得力がありました。

核禁条約の締約国・署名国の共同声明（八月一七日）も「核兵器は緊張激化につながる政策の道具として使用されている」と「核抑止論」を批判しました。

【編集部・注】
NPT＝核兵器禁止条約の略です。

【講演要旨】

平和と社会保障

新自由主義ー軍事国家化路線に歯止めをかけるために

井口克郎（神戸大学国際人間科学部、発達科学部）

医療・福祉問題研究会の総会記念講演を行う井口克郎さん

一九九〇年代半ばから本格化する新自由主義的構造改革政策によって、社会保障の解体、雇用の劣化が急速に進行した。コロナ禍はこれに拍車をかけ、多数の人びとは疲弊し、貧困が深刻化している。これに加えて、ロシアによるウクライナ侵略を千載一遇のチャンスとばかりに改憲勢力の勢いが増している。しかし、労働者・庶民による抵抗運動は「低迷」している。

政治を変えるチャンスである選挙に有権者のおよそ半数が棄権している。果たして、現状を打開する変革主体はいかにして立ち現れるのか？主体形成や連帯を阻害している要因は何か？ 井口克郎さんの講演はこの問いに正面から答えようとするものであった。

労働者・市民による抵抗を阻害している要因

九〇年代以降の自民・公明両党による政権維持を可能にし、被支配階級の抵抗の低迷をもたらした最大の要因は衆院選における小選挙区制度の導入にある。これにより、第二次安倍政権の発端となった二〇一二年衆院選で、自民党は有権者総数うち小選挙区制で約二五％、比例代表制で約一六％の得票で六割超の議席を獲得している。

主体形成や連帯を阻害している第二の要因は、新自由主義的構造改革政策によって、労働者階級内部の階層化とともに、就業層と社会保障（生活保護など）受給層の分断・対立がつくりだされたことである。自民党や維新の会は生活保護受給者に対する徹底したバッシングで支持を拡大してきた。

軍事国家への地ならし

第二次安倍政権から今日の岸田政権にかけて、日本国憲法二五条と九条の形骸化、改憲による軍事国家への転換の動きが進んでいる。改憲に向けて自民党の票田を維持するため、新自由主義政策とケインズ政策が並行して進められた。小泉政権下の極端な規制緩和策によって格差と貧困が急拡大し、これに対する国民の反発が民主党政権の成立につながったことを教訓に、大企業や富裕層に対する減税の一方で、中小企業、自営業層、労働者の機嫌取り政策が取られている。「官製春闘」と揶揄される政府による経団連に対する賃上げ要請はその典型であろう。

社会保障制度改革推進法（二〇一二年）によって、「自助・互助」化、社会保障抑制を強力に推進する政策が打ち出された。これと並行して、安保法制（二〇一五年）、集団的自衛権行使容認や国民監視法制（盗聴法改正、共謀罪、土地利用規制法）などが相次いで制定され、軍事国家への地ならしが進められている。

生活の苦しさに対する人びとの不満が政権批判に向かないよう、目を外に向けさせることは支配層の常套手段である。岸田政権は中国、北朝鮮、ロシア脅威論を振りまいて軍事費倍増策への世論の支持獲得を狙っているが、これにより社会保障費や教育費などの圧迫は必至である。際限なき軍拡競争は戦争への道である。

自公支配層は、これまで革新的知見を持っていた専門職や知識人すら、アメとムチによって国策に取り込もうとする動きを見せている。戦後長きにわたって戦争に加担する研究を拒否してきた大学も、いまや軍事研究の推進役を担わされようとしている。

課題と展望

では「貧困と戦争」への道を反転させ、日本国憲法が掲げた平和と人権保障を実現するカギは何か。

第一に、憲法や国際条約の人権や歴史に学び、社会保障・労働運動に活かすことが不可欠である。人権は理念にとどめるのではなく、「社会システム」として機能させることが肝心である。

第二に、労働者階級内部の分断・対立の克服とともに、人権保障のにない手としての公的セクターの専門職の役割が重要となる。井口さんは「身内同士の対立と消耗を乗り越え、専門職VS保守政権の構図を明確化」することを提起された。とりわけ医療・福祉分野の専門職への期待が込められている。

第三に、小選挙区制度を廃止し、完全比例代表制にかえること、民意が反映される選挙制度を実現することが、人びとの「自信回復、共感形成、声をあげられる社会」に転換するためには必須である。

第四に、大企業、富裕層への課税強化により、庶民の負担増なき社会保障の拡充が追求可能であることを広めることである。これにより労働者・市民の内部での足の引っ張り合いを脱することができる。

＊　＊　＊　＊

井口さんは長らく震災被災者や生存権裁判の支援に携わってこられた。また神戸大学教職員組合の委員長を二期連続で担っているとのこと。確信に満ちた頼もしいお話であった。

（まとめ　伍賀一道）

【講演要旨】

なぜ教育が標的にされるのか？　水面下の動きを探る

斉加尚代（毎日放送ディレクター）

講演される斉加尚代さん

ドキュメンタリー映画『教育と愛国』は教育介入への〝問い〟から生まれました。因みに〝愛国〟という言葉も年代によって受け取り方が違います。

『道徳』が教科化され、教科書検定に細かな注文がつくようになり、小学一年教科書では愛国心醸成のため「パン屋」が「和菓子屋」に〝自主的に〟変えさせられたのは、有名な話です。

今の政権は、教科『道徳』については徳目主義的で、「感謝」「勤労」「家族愛」等とともに「公共心」「国家や郷土を愛する態度」を注入主義的に捉えています。自国の歴史の負の側面を如何に書くべきかは、あくまでも学問の成果によるべきです。

まなび舎の中学歴史教科書『ともに学ぶ人間の歴史』は、学問的な要請を背景に、子どもたちに〝探求心〟の芽生えが期待できるとして教育現場の評価が高く、名門校を含め多く採択されました。しかし政権党の国会議員から、出版社ではなく採択した学校に直接、政治的圧力がかかりました。政権が〝自虐史観〟とみなす教科書を採択している学校に、大々的なハガキ抗議行動が行われたのです。当時それに関わったのが日本会議の籠池泰典氏、教育再生首長会議の松浦正人（防府市長）氏たちでした。

これらは二〇〇六教育基本法改定以降、教育関係の法律改定が続き、自治体首長が教育行政へ関与することが可能になった結果です。石川県内自治体で育鵬社の教科書の採択を広めた加賀市長は前述の首長会議の会員です。つまり教育への政治介入なのです。

この動きに強く呼応するのが日本維新の会です。大阪の条例を次々に改定し、「君が代斉唱」を拒否する教師を処分し、教育委員長を廃止して、首長が任命する教育長によって教育委員会を動かしていく仕組みに変え、能力主義と自己責任論をふりまき、成績と効率を追求する新自由主義を極限まで教育の場に持ち込みました。彼らは能力差を「個性」だと言いくるめ、教職員の給与と人事に反映させて格差と分断を持ち込み、〝ムダを省く〟名目で学校の統廃合をすすめ、落ちこぼれる子どもたちを「オレ達はいらない人間」と貶め、希望を奪っているのです。正に「競争統治」そのものです。

これらは結局、旧教育基本法改悪に行き着きます。旧一〇条（不当な支配の拒否）削除の影響が大きく表れたものです。競争させられることで政権への忖度が常態化し、教科書は政府見解に基づいて〝自主的に〟記述するようになりました。言われたとおりにやる方がラクですから。

映画の中のインタビューで伊藤隆東大名誉教授が**「歴史を学ぶ意味はない」と学問を突き放し、進歩的な教育を否定したのには驚きました。**

松井一郎大阪市長が現場を無視してオンライン学習を宣言したことに対し、小学校長の久保敬さんが市長に直接「提言」を送付し、大阪の教育行政の歪みを指摘した（後に文書訓告処分）ことに共感と激励の声が多数寄せられました（詳細はネット検索で）。

教科書の記述で「従軍慰安婦」から〝従軍〟が除かれ、「強制連行」が「徴用」に書き換えられ、また沖縄での軍による集団自決が遠ざけられても、人間の尊厳を傷つけた戦争の事実を学ぶ授業を続けてきた平井美津子教諭に対する攻撃は、熾烈を極めました。

しかし、**映画を観た彼女の教え子**の次の言葉が問題の本質を示しています。**「僕は、大切なのは日本人であることに自信を持てる教育ではなくて、ただ一人の自分であることに自信を持てる教育であり、そんな自己肯定感みたいなものは、大人に押し付けられるのではなくて自分で見つけたいし、見つけるべきだと思いました。**

「効率」を名目に学校の統廃合を強引に進め、格差で子どもを貶める教育は容認できるものではありません。希望や理想を語れない場所を学校とは言わないのです。「批判的思考」が最も大切です。騙されない人間、未来に必要な人間になって下さい。

◆「権力に対する人間の闘いとは、忘却に対する記憶の闘いに他ならない」（ミラン・クンデラ）

◆「教えるとはともに希望を語ること。学ぶとは心に誠実を刻むこと。」（ルイ・アラゴン）　［文責・編集部］

◎いしかわ県民教育文化センター主催『夏の交流研究集会』（八月二八日・金沢市内）における講演要旨です。

【講演要旨】

伊藤千代子が問いかけるもの

ワタナベ・コウ

講師のワタナベ・コウさん

私は伊藤千代子の取材を通じて、映画の原作『時代の証言者　伊藤千代子』を書かれた藤田廣登さんを知り、今回の映画製作運動にも参加することになりました。映画のプレ企画として出版したのが『漫画　伊藤千代子の青春』です。漫画では史実から離れない形でフィクションも加えています。この漫画を作る過程で私が学んだこと、千代子が生きた時代背景についてお話します。

千代子と「大正デモクラシー」

私は第一次世界大戦が開始された一九一四年から関東大震災が起った一九二三年までを「大正デモクラシー」と考えています。一九一七年にロシア革命、日本では一九一八年に米騒動があり、一九二二年に日本共産党が創立しています。支配層に対し、民衆が声を上げ、主権在民、平和と民主主義を求める潮流が、日本では「大正デモクラシー」として現れました。この時代の特徴は、組織的な民衆運動が発展したこと。労働組合、農民組合、水平社、新婦人協会が創立されたのもこの時期です。

千代子は一九〇五年、現在の長野県諏訪市で誕生しており、この「大正デモクラシー」という時代の中で青春期を過ごし、感性と知性を磨いていきました。

千代子と「治安維持法の時代」

一九二五年、千代子が一九歳の時、東京女子大学に編入した年に治安維持法が成立しています。

一九二六年、マルクス主義学習会で浅野晃と出会い、翌年夏休み、故郷に帰省したとき、千代子と浅野は紡績会社・山一林組の製紙女工ストライキを支援しています。

山本薩夫監督の『あゝ野麦峠』（一九七九年）では女工たちの劣悪な労働環境が描かれていましたが、この映画で私が注目して欲しいところは、女工たちが起ち上がったシーンです。「#me too」運動など女性たちの運動が発展している今、この映画が作られた意味は大きいと思います。

一九二八年三月一五日、千代子は治安維持法違反で検挙され、未決のまま市ヶ谷刑務所に投獄され、翌年拘禁性精神病で松沢病院に入院、病死した時は二四歳でした。

満州事変が起った一九三一年から小林多喜二が検挙・虐殺された一九三三年まで治安維持法の検挙者数が急増しています。これは多数の若い世代が侵略戦争に反対し、行動を起こしていたからです。

一九三五年、日本共産党指導部が壊滅させられ、その後も文学者、宗教者、教育者等が相次いで検挙されました。

一九三七年、「手と足をもいだ丸太にしてかえし」を詠んだかほく市出身の川柳作家、鶴彬も検挙され、翌年に二九歳で病死しました。

治安維持法は侵略戦争を遂行するため、国内治安の維持＝国民の思想や言論を抑制する手段として利用されました。

千代子が生きた時代を学ぶ

現代的意義

戦後、千代子の顕彰運動のキッカケになったのが諏訪高等女学校の恩師・アララギ派歌人の土屋文明です。文明は教え子を弾圧で奪われた憤りを言論統制が激しかった一九三五年に千代子の実名を詠んだ六首を『アララギ』に発表しています。その一首が「こころざしつつたふれしをとめよ新しき光のなかにおきて思わむ」です。

戦後、アララギ派の歌人たちは短歌界の大家だった文明が戦時下で詠んだ〝伊藤千代子〟について、調査・顕彰運動をおこない、一九七七年に諏訪市内に伊藤千代子顕彰碑を建立して

土屋文明の直筆の歌が刻まれた
伊藤千代子顕彰碑

います。

明治期の自由民権運動から「大正デモクラシー」への流れは、治安維持法、共産党弾圧、侵略戦争により抑圧されたが、戦後は日本国憲法に結実しています。

このような大きな流れは、ヨーロッパでは社会契約論、日本では天賦人権論と云われるもので、自由民権運動の理論的土台になりました。

「人は生まれた時からだれもがみな自由・平等で、幸せを求める権利がある」という天賦人権論は、日本国憲法九七条（基本的人権の由来特質）に謳われています。

自由に生きる先に
平和の大切さがある

特定秘密保護法、安保法制、共謀罪法等が制定された中で、映画『わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯』が公開され、上映会が開かれており、千代子が生きた時代には治安維持法で戦争反対の声を押しつぶして侵略戦争に突き進んでいった史実を伝える、価値ある映画になっています。

映画に出演された竹下景子さんは完成試写会で、「香港の周庭さんと千代子がだぶる。自由に生きる先に平和の大切さがある」と挨拶されました。千代子が生きた時代を学ぶ現代的意義はこの言葉に尽きると思います。

反戦平和や民主主義を訴えることが命がけになる時代にしてはいけない。千代子の映画を素材に日本の近現代史を学び、戦争を起こさせないためより多くの人と語り合いましょう。

（非核・いしかわ編集部）

◎治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部が九月三日、ITビジネスプラザ武蔵で開いた総会記念講演要旨です。講師は『漫画　伊藤千代子の青春』著者、イラストレーターのワタナベ・コウさん。

映画「伊藤千代子の生涯」県内上映会

会場	日	曜日	上映時間	上映時間
輪島商工会議所 507会議室	9月10日	土	10:00	14:00
石川県七尾美術館 アートホール	9月10日	土	―	14:00
野々市フォルテ 小ホール	9月17日	土	―	14:00
かほく市高松産業文化会館 ホール	9月17日	土	―	14:00
こまつ芸術劇場うらら 小ホール	9月19日	月・休	―	14:00
金沢歌劇座 2F大集会室	9月24日	土	10:00	14:00
金沢歌劇座 2F大集会室	9月25日	日	10:00	14:00
津幡町文化会館シグナス 視聴覚ホール	10月1日	土	―	14:00
コスモアイル羽咋 小ホール（ロトンダ）	10月2日	日	10:00	14:00
アビオシティー加賀 ホール	10月8日	土	―	14:00
内灘町文化会館 3F多目的ホール	10月9日	日	―	14:00
白山市松任学習センター 2Fライブシアター	10月15日	土	10:00	14:00
石川県立美術館 ホール	11月23日	水・休	10:00	14:00

（注）九月一〇日、輪島上映会はコロナ禍のため中止になりました。

非核石川の会リレーエッセー

戦後七七年、今求められるものは？

永山孝一

「憲法九条という宝物を手にした私たちは、何を付け加えてきただろう？」との〝非核・いしかわ〟前二八九号〝編集室より〟の問いに、ハタと考えた。

そして、少なくとも一つの成果として誰も否定できない事実に気付いた。それは〝非核五項目〟を掲げた非核石川の会の設立（一九八八年）と、とりわけ会報『非核・いしかわ』が、集団編集に移行した第一五〇号以後の機関紙を中心とした活動の広がりにあった。

とくに、私にとって印象の強かったのは、福島第一原発事故（二〇一一年三月一一日）直後の金沢集会の特集となった第一五三号（二〇一一年四月二〇日発行）、今ではすでに一一年も前になるが、そのトップ記事として、福島原発事故緊急講演会『何が起こったのか？これからどうなるのか？』、四月十二日夕刻の、科学者会議石川支部主催金沢集会が報じられたことでした。（詳細は一五三号参照）

それ以後、〝非核五項目〟を中心に諸活動が進められてきたことは、その後の運動の広がりが示している。

しかし、二〇二二年の世界と日本の情勢は、私たちに発想の転換を求めているようだ。

今宮謙二（中央大学名誉教授）氏は「変革の時代と『資本論』」＝（『経済』編集部編二〇一七年刊）のなかで、主流派経済学は現在、第三の危機にあるといわれます。その、**第一の危機**は一九二九年大恐慌で、これを契機にケインズ経済学が現れ主流となり、**第二の危機**は一九七四～七五年恐慌（スタグフレーション危機＝インフレと物価上昇）の際、ケインズ経済学の失敗が問われ、その後新自由主義の経済学が主流となる。二〇〇七～〇八年世界的危機（リーマンショック）から新自由主義の二〇二〇年代は、**第三の危機**にあり、人間の尊厳を脅かし生きる希望をも失わせる人間社会の危機である。この危機を救うには、人間個人の尊重、人間の自由を基軸とした人間解放という考えによる以外にないと語る。

コロナ禍で、大きな集会は困難な状況が続きますが、『非核・いしかわ』は情報のツールとして創造的に活用した新しい運動＝**人間の尊厳を脅かすこの危機を救う**＝の企画と、その展開が期待されていると思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

新版『資本論』を読む

船本　耕喜

新版『資本論』を読んでいる。
その難解さに
途中挫折した人の話は
いっぱい聞いた。

去年の7月から読み始めて
いま
6分冊目だ。
私には　ちんぷんかんぷんなところ
が
多いけど
わかっても　わからなくても
とにかく　ひととおり読んでみること
だと
初めに決めた。

私の人生は
思えば　途中挫折の多い人生だった。

だから　これだけは途中挫折しない
ように
かじりつく。
私の　生き方を賭けた
「意地」だ。

「そんな意地なんて読み方がある
か？」と
星になった
マルクスとエングルスが
言いそうだが
老いて尚　学ぼうという
私のこだわる「意地」だ。

めでたく
全12分冊を読みおえたら
ひとりで　自分を祝ってやろう。
秘かに　誇ってやろう。

一日一頁を　こころがけ
毎日　読みつづけている。
『資本論』全三部への挑戦は
どの頁を　ひらくときでも
妻と　つきあいはじめた場面のよう
に
胸が
ドキドキワクワクする。

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
9	24	土	14:30	国連核兵器廃絶デー記念企画・反核医師のつどい／金沢サテライト会場	石川県地場産業振興センター・新館 5階第12研修室&Zoom
	24	土	14:00	市民本位の金沢市政をつくる会・総会記念講演「性の多様性とジェンダー平等」岩本健良さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ ４階集会室
	24	土	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会　(2回目　14：00～)	金沢歌劇座 2階大集会室
	25	日	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会　(2回目　14：00～)	金沢歌劇座 2階大集会室
	29	木	10:00	新日本婦人の会金沢支部／「金沢市温暖化対策実行計画の状況と今後」　金沢市環境政策課職員	金沢市役所第２本庁舎３階　第１研修室
10	1	土	10:00	平和サークルむぎわらぼうし例会「里山・里海が壊される？！能登の風力発電計画」　三林寛さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ 4階集会室
	1	土	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	津幡町文化会館シグナス 視聴覚ホール
	2	日	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会　(2回目　14：00～)	コスモアイル羽咋 小ホール（ロトンダ）
	8	土	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	アビオシティー加賀 ホール
	9	日	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	内灘町文化会館 3階多目的ホール
	15	土	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会　(2回目　14：00～)	白山市松任学習センター 2階ライブシアター
	23	日	14:00	金沢紫金草合唱団22周年コンサート	金沢市俵町・俵芸術交流スタジオ 体育館
11	3	木・休	14:00	平和憲法公布76年記念石川県民集会／岩淵正明さん	金沢市三社町・石川県女性センター ホール
	5	土	14:00	戦争をさせない石川の会講演会／ロニー・アレキサンダーさん	金沢市青草町・近江町交流プラザ ４階集会室
	23	水・休	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会　(2回目　14：00～)	石川県立美術館 ホール

*会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円

石川の山めぐり 21

鷲走ヶ岳（1096・6m）白山市

吉沢　京子

鷲走ヶ岳（わっそうがだけ）の山名は残雪が解ける四月中旬ごろ、山腹に鷲の羽ばたく雪形が見られることから鷲走ヶ岳と呼ばれるようになったそうです。

㊨ 鷲走ヶ岳頂上　二等三角点

㊤ 鷲走ヶ岳頂上より白山を望む

白山市東二口歴史民俗資料館に駐車させてもらい、集落に入り蔵の横に登山口があります。

すぎ植林地を登って行くとA・Bコースの分岐がありAコースを進みます。林道に出て、尾根を登って行くと白抜山（891m）に着きます。電波反射板が立っています。

反射板の横から進んでいくと鷲走ヶ岳に着きます。二等三角点（点名高尾山）があります。ここまで標準タイム二時間半ぐらいです。

頂上から白山、大笠山、笈ヶ岳が目の前に望めます。

帰路は、来た道を戻るか、登ってきた反対方向に下りると、林道の駐車場に出ます。林道を一時間ぐらい歩き、杉植林地の登山道Bコースへ入り、水芭蕉の群生地を通りAコースに合流して、東二口へ戻ります。

東二口は三〇〇年以上続く、文弥人形浄瑠璃「でくまわし」で有名です。上演は二月にありますので一度お楽しみをお勧めします。

山のお花は、タムシバ、イワウチワ、チゴユリ、マイヅルソウ、ユキザキ、ナルコユリ、ホンシャクナゲ、サンカヨウ、ギンリョウソウなどお花が多く、静かな山歩きが楽しめます。

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　坂本　朋子

編集室より

◎非核の会として見逃せない報道が一三日にあった。政府は次世代エネルギー源〝核融合〟の開発推進で有識者会議を設置し、来春にも具体的な戦略を策定するという。四〇年も研究しているのに多くの技術的な課題が残り、見通しが立たないものをまたぞろ持ち出し、莫大な無駄遣いをし、持続可能エネルギーの開発を遅らせるばかりか、既存原発の再稼働や延命に利用するのは目に見えている。

◎旧統一協会（世界平和統一家庭連合）＝国際勝共連合と自民党の癒着は六〇年以上にわたる歴史がある。ここで重要なことは、協会の「韓国中心」の教義に由来する「反日性」と、歴史の歪曲を進めようと目論む自民党保守派の主張との、互いに相いれない〝矛盾〟を抱えながらの、より大きな一致点としての「反共主義」による野合である。これは愛国心などを語る中心にいた人たちが、なんと「反日性」を強く持っている教団と関係があり、そのことが霊感商法や集団結婚など統一協会による深刻な被害の拡大につながり、多額の日本円を韓国に貢いだ。これは政治的モラルハザードそのもので、その責任は極めて重大だ。

なぜ協会と自民党は強い永続的な協力関係を築いてきたのか。それは浅薄にも「反共」のためなら矛盾を無視して合理化し、改憲や反動立法の推進で互いに支援・協力し合うことが、目先の利益に叶ったからである。

岸田政権は「関係を断つ」と言いながら、協会と深い関わりを持つ安倍氏「国葬」の矛盾を説明できず、その実施は憲法違反（一四条・法の下の平等、一九条・思想及び良心の自由）である。「国葬」は、統一協会と政治との関係を深め、反社会的カルト集団の被害を拡大させた広告塔としての安倍氏の行為を、国家が是認することに他ならず、許される筈がない。（中）